

## その3 昼時の迷惑なウサギ

### 昼時の迷惑なウサギ

産業まつりを一通り歩き回ったウサビは、ちょっと散歩に出かけることにしました。



お金もないのでとくにやることが無いウサビ

ウサビ「ちょっくら最上川にでもいってくるねー」

天気もいいので最上川に行くことにしました。



幼稚園(保育園?)のみんなに挨拶をしていざ出発!!!

たしか、カヌーランドという場所が絶景スポットだって遠藤さん(エコミュージアムの案内人さん)がいていたなあ・・・

ということで車で10分ほどでカヌーランド到着



ウサヒ「天気がいい日は最上川に限るね」

大自然を前にしても自分のスタンスを崩さないのがウサヒ流。



着ぐるみにはもったいないくらいの絶景



ちょっと黄昏てみる

(雄大な流れと秋の日差しで本格的に眠くなってきた……)



ゴロゴロ

ウサビ「むにゃむにゃ、ダチョウまるまる1匹は食べきれないよ〜」(寝言)

そんなことをしていると……



カヌー発見！！

そう、ここはカヌーランド。

最上川でカヌーを楽しむ人たちの船着場なのです。



ウサビ 「いいなあ、たのしそーだなー」

(以前、ウサビがカヌーをする企画も挙げたが、頭が水を含むと大惨事になるため却下となっている。着ぐるみは川との相性が最悪)

うらやましそうにカヌーを眺めるウサビ。



ウサビ「カヌー企画はやっぱりやるべきだね！ 転覆しなきゃ大丈夫だよ！！」

ウサビがそんなことをいっていた瞬間背後で大変なことが起こっていました。

カメラの鈴木さん「ウサビ！ うしろ、うしろ--！」



.....

ウサビ 「これからも、みんなの意見はちゃんと聞いて企画はたてようね…」

後から知人に聞いたところによると、転覆してもすぐ起き上がって復活できることがカヌーの魅力のひとつだそうです。なので、練習のためわざと転覆する人もいるくらいで、とくに大惨事というわけではありませんでした。

カヌーランドで存分にゴロゴロしたあと、

帰りがけに最上川を眺めてるカップルを発見

ウサビ 「こんにちはー、いいお天気ですね。ボクの日ごろの行いのよさですね」

空気を讀まないウサビは、たまらず乱入



お兄さんがとっても喜んでくれた

お兄さん 「さっきから川を背景に撮影会していたみたいだけど、アイドルかなにかなの??」

ウサビ 「そうです、朝日町のアイドル、桃色ウサビです」

中の人「ほんとうは、朝日町の押しかけ PR キャラクターなんです」



事情を説明する中の人。

お二人とも面白がって聞いてくださり本当に感謝です。

この出会いに調子づいたウサビは、

ウサビ「この感じで、いろんな人と話してみよう！」

と、勝手にインタビュー企画を提案。

この日はリンゴの収穫最盛期ということもあり、カヌーランドの周りにはたくさんの方がいたので、絶好のインタビュー日和と考えたのです。

ウサビ「こんにちは、りんご獲れてますか～」

ご夫婦「??害獣??」



仙台の方からきているご夫婦を捕まえたウサビ

お二人はリンゴオーナーさんだそうです。

### リンゴオーナーとは

リンゴの樹 1 本のオーナーになり、葉や花を摘んだり、収穫する体験ができる制度。

現在、平成 21 年度のオーナー募集中です。

(追記、おかげさまでりんごオーナー募集は定員に達しました。多数のご応募ありがとうございます)

ご夫婦 「いやぁ、今年は本当にいっぱいとれたよ。ここで育てたリンゴは親戚や友人にあげてるんだけど、すごく評判いいんだよ。」

ウサビ 「朝日町リンゴのおいしさの秘訣はなんですかね」

ご夫婦 「やっぱり最上川の力じゃないかな？川にかかるあの神秘的な朝もやがおいしさに関わっているに違いない・・・」

ウサビ 「魔法の『朝もや』ってわけですね 」

ご夫婦 「そうね、最上川のパワーがつまっているのね」

朝もやとリンゴのおいしさの因果関係は、科学的にはないようなので、あくまでもウサビたちの直感的感想です。しかし、古くから寒暖差が激しいところのリンゴはおいしいといわれています。青森県や長野県など朝日町以外のリンゴの産地の気候を考えると、確かにそうみたいですね。

ご夫婦とわかれ、そのまま川沿いを歩いていると

今度はリンゴの木の下でお弁当を広げているご家族を発見



なんというか、今日がついてるなー

迷惑おかまいなしの着ぐるみウサギは、なんとこのご家族にも直撃取材をしようと、木の影からじりじりと近づくのでした…

つづく